日本国憲法第九条（戦争の放棄、戦力及び交戦権の否認）
①日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
②前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

I ♥ 9条

みやざき九条の会ニュース No.43

（封書版）2018年 9月4日 発行

〒880-0803宮崎市旭1-3-20 くすの樹ビル
TEL:0985(24)8820 FAX:0985(22)2937
http://welove9.org/ （募金常時歓迎）
口座記号番号 ： 01760-4-131244
加 入 者 名 ： みやざき九条の会

巻頭言

若者たちは今 ―今を未来につなぐために―

瀬口 黎生

一、彼らは代表者か

私たちはこの日本に生きることの不幸を問い直すところに来ているのではないでしょうか。

第二次世界大戦が終わって70年余、植民地体制が崩壊して、二一世紀の世界全体としては揺るがぬ民主主義の前進を示しているというのに、私たちは民主主義のイロハを改めて検討することを迫られているからです。

民主主義は本来、為政者と国の主人公である国民とのあいだに、自由や平等など人間としての諸権利を擁護するという約束の上で委任したものです。この約束文書が憲法です。

私たちは今、戦後最悪の安倍政権が国会での虚構の多数を背景に、私たちの委譲した権力を私物化し、みえみえの嘘と虚言を弄し、憲法を破壊して居座り続けています。この主権者を裏切る一事だけとっても、退場以外にないのです。おぞまし過ぎて、虚偽のデータ、改ざん、疑惑、隠蔽などなど、いちいち挙げるまでもないでしょう。先の国会では目に余る所行を恥じることなく強行採決を繰り返し、危機をあおることしか知らないパフォーマンスの外交に頼って世界の潮流からは孤立しました。また、しのびよる貧困をよそにギャンブルのてら銭までもあてにして成長にしがみつく始末です。しかも臆面もなく戦前の悪夢の、「富国強兵」の下心を隠すことなく、九条改憲を掲げています。

二、若者たちの今

このような政治状況の混迷や、対米依存を深め非核に背を向ける政府を越えて、若者たちは未来を見据えています。

若者たちの動きの一つとして、今年のノーベル平和賞の候補に、「高校生平和大使」が正式にノミネートされました。彼らは一九九八年より核兵器廃絶と平和な世界の実現を訴えて国連を訪問し、この二〇年間に約二〇〇名の平和大使が派遣されました。二〇〇一年からは署名活動もはじまり、全国の高校生が集めた一六五万筆の署名は国連に永久保存されています。この派遣委員会はさらに一〇年二〇年と未来に向けて活動を続けるといいます。

今一つは、今年の六月二三日の「慰霊の日」、沖縄糸満市摩文仁の平和記念公園で行われた戦没者追悼式で、浦添市立港川中学三年の相良倫子さんは平和の詩を朗読して、「あなたも知っているだろう。この島の悲しみを」と訴えました。**（全文を紙面の末尾に採録）**祖母から聞いた話をもとに綴った、若者の意思と力にあふれたものです。その最期に「未来は、今なんだ」と呼び掛けています。私たちはどんな今を彼らに手渡すことができるのでしょう。

三、私たちにできること

一つは広汎な世論を盛り上げて、決してほんとうの多数ではない彼らを包囲することです。お隣の韓国ではわが国より強大な権力を持つ大統領を連日の粘り強いキャンドルデモで最後には退陣に追い込

みました。わが国でも全国で退陣要求の機運は盛り上がっています。それでもなお厚顔無恥の安倍一派は居座るでしょう。彼らのポピュリズム的な振舞いは幻想を振りまき、一定の支持をえているからです。

しかし、それはもろい支持に過ぎません。私たちは現在取り組んでいる「改憲阻止」の３０００万署名を達成して歯止めをかけ、次の地方や国会の選挙で、憲法を擁護し安倍政権の退陣で一致する全ての野党や市民の共同の勢力で明示的な意志と政策を打ち出して少数に追い込むことです。

この宮崎でも国会議員は全部自民の独占です。このうんざりする状況を打ち破ることが切望されます。私たちの世代がなんとしてもこの現状を打破して、誰もが平和で豊かに、人間らしく生きられる未来を若者たちに引き継がなくてはなりません。

民主主義を忘れた国会

宮崎市　かい・たろう

7月21日通常国会が終わった。与党側はほぼ予定通りの運営ができたとホッとしているだろう。しかし、一億二千三百分の一の国民として総評するならば、及第点には程遠い成績であった。民主主義における政治は、いうまでもなく「国民の、国民による、国民のため」でなければならない。中学生でも理解しているこの原則を今更持ち出すのは気が引けるが、今、初心に帰って見なければ引き返すことができない迷路に入り込むのではないかと危惧している。

小選挙区制の今、投票率はせいぜい60％、その50％以上を獲得すれば議員となる。その議員たちが集まった会議で50％以上の賛成があれば法案は成立する。全部を掛けあわせると全体の15％を超える人たちの人心を捕えることができ、手順を踏みさえすれば民主的政治として運営されることになる。

7月22日の「サンデーモーニング」であるアンケートの結果が紹介された。働き方改革法に反対47％、参議院議員定数六増法反対69％、カジノ整備法反対65％だとの紹介があった。世論がどうあれ、議論が不十分であったとしても与党絶対多数の現状では法案はほぼ原案通り国会を通過する。

結果として、国民の意識と国会（永田町）の意識との間には大きなギャップが生まれる。これは、民主主義の大いなる弱点である。弱点を指摘し評論するに止まれば進歩がない。この弱点を補う方法を考えるべきだ。

先ず、選挙の投票率を上げること、次に、国づくりのために将来像を描き、争点を明確にすること、第三に、ディベイトでなく、ディスカッションを重ねること、最後に、これら選挙期間をだけでなく、一億総評論家でもなく、国民一人一人が考え続ける習慣を身に着けることなどである。

私は、自然科学に興味を持っている。右でもない、左でもない客観的に物事を観察するよう心掛けている。そんな思いで終わった今国会を振り返って見た。

【行事案内】

★９条改憲を止めよう！
県内交流集会
10月13日(土)午後２時～４時頃
宮崎市民プラザ４階ギャラリー
第１部　今なぜ９条改憲なのか
講師/藤原宏志氏
第２部　交流の場
安倍９条改憲NO！3000万署名行動や創意ある取組など報告や意見等で交流します。
会費無料、どなたさまでも参加できます。
主催/みやざき九条の会

★みやざき九条の会年例会
九条改憲を阻止するために
講師/高田健氏（総がかり行動実行委員会・九条の会事務局）
11月24日(土)午後１時半～４時
宮崎市民プラザ４階ギャラリー
入場料/500円
主催/みやざき九条の会

国民の利益を守る経済ルール（政策）を！

人口減少時代の到来

藤原宏志

一．人口減少と資本主義経済

世界の人口は紀元元年当時から中世まで、ほとんど変わらず2億～5億人程度だったとされています（もっとも、その当時の正確なデータはないので推定値ですが）。産業革命以降、世界の人口は人口爆発と呼ばれるほど急激な人口増加期に入りました。（このような個体増加を生物学では異常発生といいます。）

人口が増えたのは産業革命で生産性が飛躍的に伸びたことが主な要因です。人口が増えれば、労働力が増大するとともに消費も増えます。その結果、生産量が増え、経済は飛躍的に発展しました。成長期の資本主義経済は、以前の封建的弊害を打ち破り近代化を実現することになります。こうして発達した資本主義経済にも大きな弱点がありました。それが所得格差です。経済成長とともに所得格差が広がり、経済的弱者は困窮のため、子育てが難しくなったというのが現状です。人口が減れば、当然労働力も減りますが、同時に消費する人間が減るわけですから、需要が減少する、つまりモノを造っても買い手がなくなってしまいます。人口が増える間は需要も増えますが、人口減少の時代になると需要が減りますから慢性的な不況になるわけです。資本家は儲けるために投資するのであって、投資しても損をするのでは投資の意味がありません。資本主義経済が末期にきたといわれる所以です。

二．第四次産業「ＡＩ」革命

最近、ＡＩ（人口知能）という言葉があちこちで見られるようになりました。自動運転、無人コンビニあるいは囲碁の世界名人がコンピューターに負けたなどなど。また、これから10年～20年の間に労働者の47％がコンピューターに職を奪われるという話も気になります。

なんだか空想の話のように聞こえるかもしれませんが、あながち与太話と笑ってばかりいられません。車の自動運転はすでに公道試験が行われているし、店員のいないコンビニも出来ています。汎用型人口知能(AI)と呼ばれる“考える能力”をもったコンピューターが開発されると、演算速度と記憶力だけでなく人間の頭脳を越える存在になるという話が真剣に議論され始めているのは事実です。第四の産業革命と呼ばれる大きな技術革新が進行していることだけは間違いありません。その場合、コンピューター関連技術者は大幅に不足すると考えられます。そうなると、技術革新による生産力は飛躍的に増大しますが、大半の筋肉労働と事務労働はコンピューターにとって代わられることになります。コンピューター技術者は重用されますが、単純労働・事務的労働者は大量に失業する可能性があります。

三．「ルールある経済」社会

人口減少により総需要（消費）が減少する一方、第四次産業革命といわれる技術革新は人口減少により生産年齢人口が減るにもかかわらず、生産力を飛躍的に発展させます。その結果、経済は生産過剰になり、慢性的不況に陥ることになります。一方でコンピューター化により生じた大量の失業者には購買能力がなく、貧困化が加速することになります。これでは折角の技術革新も社会全体に貢献することにはなりません。

「世界で一番企業が活動しやすい日本」というのがアベノミクスの合言葉でした。その結果、富豪の所得は急成長する一方、99％の国民は実質賃金の切り下げと増税・福祉切り捨てで格差が拡大しました。これ以上アベノミクスを続ければ、さらに格差が拡大するだけでなく、経済全体が機能不全になってしまいます。

新自由主義経済の決まり文句は「規制緩和」でした。大企業の「一人勝ち」ルール（政策）を進め、国民全体の利益を守る規制を次々に廃止した結果が、この格差社会だったのです。大企業本位のルールから国民多数の利益を守り

保障するルールに切り替えれば第四次産業革命による技術革新の成果を国民のものにすることができます。また、そうすることが日本経済の健全な発展をもたらすことにもなります。

四．国民主権の発動による改革

所得格差の拡大が人口減を招くまでに進行したこと、一方、科学技術の進歩が人口知能を開発し大幅な省力化が可能になろうとしていることを述べました。これからの日本が進む方向は大きく二つに分かれます。

一つはアベノミクスに代表される「大企業の利益」をさらに一層追求する道です。この道を進めば格差拡大、原発依存、消費者負担の増大、福祉切り下げなどが進行し中間所得層の大部分が貧困層に移行することになります。その結果、総需要の減少により経済は縮小しマイナス成長に陥ることになります。この道は国民だけでなく大企業自身も自縄自縛により破綻する道です。

二つめの道は「国民大多数の利益」を追求する道です。科学技術の発展は科学者・技術者の活動がもたらすものです。それは今の科学者・技術者の活動だけでなく、人類が長年かけて蓄積してきた成果の上に成り立ったものです。したがって科学技術の成果は広く社会全体に還元されるべきものです。訪れようとする第四次産業革命の成果を一握りの企業家にとどめることなく、国民全体に還元することこそ、総需要を確保し労働時間を短縮することに繋がる道です。

五．憲法九条を生かす道こそ「99%の国民の利益」

安倍首相はどん詰まりのアベノミクスに固執し、最後の望みを軍需に求めようとしています。これはアメリカの武器売り込みを図るトランプ米大統領の求めにも応える道です。そのために、憲法九条を改悪し戦争景気を煽ろうとしています。窮鼠猫を噛むではありませんが、景気回復のため戦争を弄ぶほど危険な道はありません。なんとしても、安倍九条改憲の企みを打ち砕く必要があります。

「国民大多数の利益」を追求する道など本当に選べるのでしょうか？　出来ます。国民は国の政策を決める主権者なのですから。大多数の国民が状況を把握し、その改善を望めば必ず実現します。

真夏の怪談

横川澄夫

「ウソつきは泥棒の始まり」と子供の頃に戒められた、がそれでもウソをついていた。「ウソつけばエンマ様に舌を抜かれる」と言われたが、舌がまだ健在なのは、エンマ様にまだお会いしていないからなのかもしれない。それでもウソつくたんび、ちくりちくり棘が心に刺さったものだ。

アベシンゾウ君のウソは、誰にでもウソだと判る。判らないのは、どうしてそうまでしてウソをつき続けるのか、友達を裏切ってまでウソをつき続けねばならぬのか、ということだ。そして恐ろしいことは、ウソをつき続けることで政権が維持され、国の体裁が整ってゆくということだ。

そしてもっと恐ろしいことは、いるかいないか半信半疑だったとしても、エンマ様の前で申し開きしなければ、とウソつきにブレーキがかかってきたものが、総理大臣初めこの国ではウソが大手を振って罷り通り得るということで、国の作法として幼い心への植付けが始まることだ。ウソをつき続けることが、国の作法となるのだ。

こんな「怪談」は今に始まったものではないと思う。１９４５年の夏、こちらのウカツさも問題なのだが「民主主義」の掛声で、軍閥は滅び財閥は消えこの国は全く変わったと喜びに酔いしれていた。だが、変わっていなかったのだ。どころか、今再び、手を変え品を変えて再び同じ道を歩もうとしている。ウソつきシンゾウ君もそんな中に咲く仇花なのかもしれない。

さて、ぼくらなのだが、慌てず騒がず、怪談に振廻されることとのない足腰を鍛えておきたいと思う。

安倍総理という人物

宮原宣子

朝日新聞の7月世論調査結果が16日にでた。安倍内閣を支持する38％・前回と同じ。支持しない・43％・前回45％。支持している政党・自民党34％・前回と同じ。支持政党なし39％・前回40％。モリ・カケ問題や福田次官のセクハラ問題、働き方改革、参議院議員定数6増案やカジノ実施法案の審議など、今国会での議論や官僚の答弁は酷いものだった。なかでも安部総理の答弁は一貫して、野党議員からの質問に誠実に答える姿勢が微塵もなく、はぐらかしと「ごはん論法」（注参照）と称する「ずらし答弁」、そしてためらいもなく嘘をつき続けた。その嘘との整合性を図るのに多くの官僚や側近、友人が振り回され、文書の改竄や廃棄、不実な発言が繰り返され、安部総理だけが無傷で乗り切った国会だった。こんな政権に38％の支持って本当なのか？　私は、安倍総理に過去にも歴史を歪める振る舞いがあったことを思いだす。

１９９７年安倍晋三氏は「日本の前途と歴史教育を考える若手議員の会」の事務局長を務め、中学校歴史教科書から「慰安婦」記述の削除に関わり、「河野談話」で示された世界との約束を反故にした。

さらに２００１年には、当時、籾井勝人会長だったＮＨＫ番組ＥＴＶ特集、「日本軍性奴隷制を裁く女性国際戦犯法廷」の記録が放映される直前に介入し、改ざんを強要した。（週刊金曜日２０１４・１０・２９臨時増刊号より）」改ざんされた内容は「天皇裕仁は、人道に対する罪の訴因である強かんと性奴隷制についての責任で有罪である」という判決文と、韓国人被害者の証言部分などだった（戦争と暴力日本ネットワークVAWW-NET Japan　01/03/20より）。削除された部分こそ、日本軍慰安婦の被害者と、この問題に強い関心を寄せ活動してきた者たちが切望してきた判決内容だった。　その後、我が家は6年余りＮＨＫ受信料の不払いを続けた。

この半年余りの国会の攻防を注視し続けた私の知り合い、夫や親友たちは皆、怒りにかられている。私自身も当然、何とも表現しようのない不快な気分、息苦しさと悔しさでイライラがつのっている。単に、安部総理がモリ・カケ問題への関わりを全否定し、言い逃れたという不実さだけではない。国会での女性議員の質問にヤジを飛ばし、6月末に行われた党首討論では、わずか6分の持ち時間しかない岡田代表の質問に、質問内容とは関係ないことを延々と話し、野党からの怒号に怯むことなく、持ち時間6分を食い潰す。このように弱者をいたぶる振る舞いが平然とできる総理大臣、他者への敬意や正義への志の低さ、言葉の中身の薄っぺらさなどなど、これが日本の最高責任者を自認する安倍総理の実像なのだ。私はこれからも「安倍政治を許さない！」と言い続ける。

（注）ご飯論法とは、「朝ご飯を食べたか」との質問に、パンを食べていても、あたかも「ご飯（白米）」について問われたかのように論点をずらし、「食べていない」と強弁する論法。安倍内閣での国会答弁において、首相のみならず、閣僚、官僚のほとんどが答弁をすり替えていた。

（ぼうごうなつこ作）

自分事になった「戦争」

小林市　中里みき

私は６年半前に、東京から宮崎県小林市の西小林地区に移住してきました。西小林で地域の仕事をするようになり、また政治の状況も相まって、「戦争」を自分事として感じた出来事があります。

１９４５年(昭和20年)８月10日午前９時頃、米軍機グラマン３機が飛来し、西小林小学校（国民学校）生徒奉仕隊の一行を機銃掃射し、アッという間に死者10名、負傷者18名を出しました。毎年８月10日には、にっこばまちづくり協議会(小林市の西小林地区)主催の追悼法要と慰霊祭が開かれ、ご遺族、区長、民生委員が参加しています。私は地域団体の事務局として、ご遺族に案内状を出したり、法要に出席したりして、いつもお付き合いのある近所の方々から、戦争の話を直に聞くこととなりました。また、案内状を送るご遺族に沖縄の方がいて「なぜだろう」と思っていましたが、沖縄から疎開して宮崎に来ていたのに犠牲となってしまったことが分かりました。そのお子さんのご遺族が、わざわざ沖縄からお見えになる年もあります。

昨年から、西小林小学校も夏休みの登校日を８月10日に合わせ、平和学習を行なっています。今年も、校庭にある慰霊碑前で、ご遺族と一緒に鎮魂の祈りと献花をしました。

目の前にいる小学生と同じ子どもたちが、73年前のあの日、足や手や頭が吹き飛ばされたり、内臓が飛び出たまま死んだのです。最後に水が飲みたいと訴えたのに「水を飲ませたら死んでしまう」と言われたため、飲ませてもらえずに死んだのです。泣いて「お母さん」と呼びながら死んだのです。親や兄弟姉妹や同級生や先生の目の前で。戦争とは、私たちの家族や友人が死ぬのです。そして、それは戦争相手の国民も同じです。

数年前に、米軍グラマン機の機銃掃射痕のあるお宅を見学させていただきました。弾は回転しながら飛んでくるので、梁や柱についた弾痕は、入口よりも出口が非常に大きく、破壊力の大きさが想像できてぞっとしました。親と一緒に庭にいた子どもは、射られて首と胴が別々になったそうです。

今年、西小林小学校の平和学習では、サラ宮崎の朗読劇「受け継がれる想い」の上演があり、特攻基地だった日本海軍赤江飛行場(現在の宮崎空港)から飛び立って再び帰ることのなかった若者の物語を聞きました。劇の後、特攻隊のパネルを見ながら、「戦争がなぜいけないか、自分の言葉で語れるようになって欲しい」とのお話しがありました。また、劇団の方が、「仲良くなろう」と握手を求める反対の手が拳を振りかざしていたとしたら、握手して仲良くなれますか？と子どもたちに問いかけがありました。

これは、私たち大人への問いかけでもあります。世界の国々と友好関係を結びたいなら、まず自分から拳を下ろさなければなりません。日本がたくさんの拳を上げていることは、あまり報道されませんね。私たち国民がしっかり監視

し、権力が過ちを犯したら批判する、これは良心を持つ人間の責務でしょう。日本国民は憲法で、国際平和のために全力をあげると誓ったはずなのに、私たちは全力を尽くしているでしょうか。

地域で各戸配布される通信で、毎年８月号ではこの追悼法要と慰霊祭を中心に、戦争や平和について考える記事を掲載しています。憲法９条や前文の抜粋を載せたこともあります。微力ではありますが、今後も続けていきたいと思います。また、ご遺族だけでなく、機銃掃射で生き残った方や、家族や友人から話しを聞いた方、そして若い方々が交流できる機会をつくりたいと考えています。

小さな山の学校から

宮崎県教職員の会　橋本律子

４月に、隣町の小さな中学校に転勤した。しみじみ思うのは、やはり少人数学級だと子どものことを掴みやすく、こちらからの仕掛けも多種多様にできて「学校がおもしろい」ということだ。たしかに、生徒同士の切磋琢磨や行事の内容に限界を感じることはある。また、何かというと小中合同で、とくに中３の生徒にもっとレベルの高い挑戦をさせてやりたいという思いもある。それに、生徒数が少なくても授業やそれ以外の実務が減るわけではなく、むしろ授業時数はぐっと多くなるし、分掌や出張も増える。

しかし、それを補って余りある良さがあるため、毎日を「おもしろい」と感じるのだと思う。物理的にも、教室内が広々としているから座席の配置も自由で、机を輪にした話し合いもすぐできる。ロッカーや壁も工夫し放題で使えるため、いろいろな物を常備できる。自分のコレと思う材料で、教室に遊びや文化を持ち込むすき間があるのだ。

だが、４カ月を過ごした今、少人数で行き届くがゆえの問題点を感じるようになってきた。それは、もう10年以上前から現場に広がっている「ゼロトレランス」の流れである。「立腰」、「チャイムが鳴ったらその場で直立黙想」など、前任校でも次々と押し付けられてきた。「〇〇スタンダード」といって自慢している学校もある。学校生活を一様に揃え例外を認めない、形を決めて従わせる、なぜ？と考えさせない…。これまでの学校には、「そんなのおかしい」と反発したり抵抗したりする生徒が必ずいたものだが、小さな集団ではそのような「異端」は生まれにくいのだろう。教師の立場から言えば、生徒が素直で従順な分、説明のつかないおかしなこともやすやすと浸透していく。そして、それ以外の場面で互いの関係性を修復することは可能なので、問題だと感じにくいのだ。

私が驚いたのは、「朝７時40分～校門近辺と隣の神社の除草清掃」「給食のおかわりは忘れ物してない人に限る」というルールだ。朝の方は一応ボランティアだが、出て行かないと呼ばれるし、「おかわりルール」に食いしん坊たちが文句も言わずに従っているのが不思議でならない。

スタンダードで整えられた集団は、一見規律正しいお利口さんたちに見える。しかし、直感や好悪を本音で語れない集団の深層には、思考停止と大人不信、諦めがはびこる。将来は、自ら長いものに巻かれ周囲に忖度するだけの人材に育っていくのではないだろうか。これは、主権者教育の正反対を行くものだ。

こんな学校現場のことを、鈴木大裕氏は「先生が先生になれない社会」と言う。（「クレスコ」７月号）

私は、先生が先生らしい仕事をすることが、今こそ求められている時はないと感じる。見聞を広め研修を積んで自己を高め、それが丸ごと仕事に活かせる…これこそが教師の仕事の魅力であり、教える喜び＝手ごたえだったはずだ。昔話にしてはならない。

分裂国家の悲哀と逞しさ（3）

河野　富士夫

今から４年前の２０１４年９月18日、スコットランド独立住民投票が行われました。投票の結果は独立賛成は44.９%、独立反対は55.３%で、独立は成りませんでした。丁度、その年の５月から６月にかけて、私はスコットランド、イングランド、ウエールズを旅行していたので、イングランドとスコットランド問題の根の深さを垣間見た気がしました。

スコットランドとイングランドの境を、中国の万里の長城とまではいきませんが、石積みの「ハドリアヌスの長城」（写真１）が延々と延びていました。古代ローマ皇帝ハドリアヌス（76年-138年）が、支配下においたイングランドを北方のスコットランド民族から守るために築いたものです。

またネッシーで有名なネス湖の傍に、廃墟になった「アーカート城」（写真２）がありました。13世紀の初めにスコットランド国王が建てたものですが、イングランドの侵略で、何度か支配者が変わったお城です。

スコットランドの首都エジンバラにエジンバラ城があります。有名なロンドン塔で処刑されたスコットランド女王メアリー・ステュアート（1542年 - 1587年）の居城です。その一部には、第１次・第２次世界大戦でのスコットランド人の戦争死傷者20万人の記念館があり、何冊もの分厚い本にはスコットランド人の戦死者の名前だけが書き込まれていました。

スコットランドにはスコットランドのポンドがあります。旅行中なのでイギリスのポンドしか使いませんでしたが、スコットランドでは両方のポンドが通用しているようです。20ポンド紙幣の表面にはスコットランドが誇る「フォース鉄道橋」が、裏面にはその建設に携わった渡邊嘉一を中心とする日本の３人の技師の姿が描かれています。

また街中ではあのスコットランド特有のキルト（スカート）を履き、バグパイプを吹く「男性」（写真３）をよく見かけました。彼らは昔下着を履いていなかったとかで、日本の女の子が何とか下から写真を撮ろうと頑張っていたのが面白かったです。

これまではイングランドとスコットランドにはそれぞれ国王がいましたが、１６０３年にひとりの君主が両国の君主となるという「王冠連合」が出来ました。そして１７０７年に２つの王国は連合条約と連合法の可決を経て正式に連合することとなり、「グレートブリテン王国」が成立しました。しかしこの連合は国民を置き去りにした、王家を中心とした次元での決めごとだったのです。それでいまでも国民の次元で独立問題が起こっています。

１年以上前からBS３(水)で「クイーン・メアリー（メアリー・ステュアート）」をやっています。とても興味深いので、是非ご覧下さい。

写真１ハドリアヌスの長城

写真２　ネス湖の傍らのアーカート城

写真３ ﾊﾞｸﾞﾊﾟｲﾌﾟを吹く男

みやざき九条の会の会員の皆様へ　　2018年8月22日　　みやざき九条の会世話人会

「安倍９条改憲」発議を止めるために、
この秋、「3000万署名」を含めたあらゆる行動を強めましょう！

今夏、西日本での大災害があり、つづく猛暑で辛い日々となりました。各地では、暑さにめげず「安倍９条改憲ＮＯ！」の3000万人署名に取り組んでいます。

全国市民アクション実行委員会による、これまで全国集計では、６月７日の第一次署名、1,350万人分提出後も、延長国会の7月上旬には100万人分を提出しました。「市民アクション宮崎」では、各団体と個人の取り組みにより、７月31日時点で署名総数 32,835筆で目標の12万筆に対し27.4%でした。そのうち、みやざき九条の会分としては807筆でした。

私たちは、今期の通常国会での「改憲発議」を阻むことに成功しましたが、安倍首相は、９月の自民党総裁選で３選を果たし、秋の臨時国会にも「９条改憲」発議を狙っています。

このため、全国市民アクションは、3000万人署名の第４次集約を「９月30日」に設定しました。「署名」のエネルギーをさらに大きく広げることが、改憲発議を断念させ、安倍退陣を迫るうえで不可欠です。その意味で、この秋の私たちの行動が、まさに正念場を迎えます。

市民アクション宮崎(一構成団体として当会も)では、いっそう取り組みを強めることになりました。秋の臨時国会に署名の山を積み上げ、「3000万人署名」の力を示しましょう。

安倍９条改憲の危険性が官邸のメディア支配などにより、まだ多くの国民はわかっていません。つまり、アメリカの起こす戦争への自衛隊の海外派兵（やがては徴兵制も現実に）、軍事費の膨大化の一方で社会保障や教育予算の削減、労働条件の劣悪化による格差貧困の拡大。次に自民党が制定を狙っている、緊急事態条項は、総理大臣が特に必要と認めれば、どんなことにでも発令でき、憲法で保障された、基本的人権も立憲主義も三権分立も停止され、しかも、無期限に延長できます。これを許せば、戦前の日本のように、政権に都合悪い団体や個人は貶められ、軍事独裁国家・監視社会が到来する恐れさえあります。

秋の臨時国会で「９条改憲」が最大の焦点になる中、多くの人に、安倍９条改憲の危険性と同時に、「憲法９条こそが、戦後の日本の平和と繁栄に貢献してきたこと、今後、北東アジアの平和共同体をつくり、国内外の99%の人々に平和と繁栄を保障する、世界の宝であり、未来を拓く」ことを知ってもらうことが重要です。

*************************みやざき九条の会からの当面のお願い*************************

１）「安倍９条改憲NO！3000万署名」を広げてください

①これまで署名用紙をお寄せいただいた方もまだの方も、再度、周囲や遠方、あるいは人が集まる機会に、親戚、友人、知人に働きかけ、署名を広めてくださるようお願いします。

集まった署名用紙は、郵送または九条の会関係者に直接お渡しください。

なお、「署名用紙」と料金受取人払の「返信用封筒」同封しています。不足の署名用紙は、インターネットからダウンロードするか、ご連絡いただければお送りします。

署名送付先：880-0803 宮崎市旭1-3-20くすの樹ビル みやざき九条の会 TEL0985-24-8820,

②コープ店頭や山形屋前での街頭署名行動へ参加しましょう

２）当会主催の次の行事（詳しくは同封チラシを参照）への参加

＊10月13日（土）14:00～宮崎市民プラザ４F、9条改憲を止めよう！県内交流集会

＊11月24日（土）13:30～宮崎市民プラザ４F、みやざき九条の会年例会「高田健講演会」

県内地域九条の会の紹介

8月に行ったアンケート回答から

★大宮宮九条の会(宮崎市)

定期総会、1月の「新春のつどい」春の「桜の花見」月1の世話人会これらの活動は憲法居酒屋風な自由に各自が発言し、楽しく学びながら、行動へと結びついている。

みやざき九条の会や地域九条の会、諸団体の平和と九条を守る運動に参加。

3000万署名は東大宮九条の会と合同でコープ花が島店頭で1月から3月まで週1回、3月から6月まで週2回、夏場は一時休止、9月から曜日を変えて実施予定。

★おおつか九条の会(宮崎市)

定期総会、月1の世話人会、数か月おきに、平和学習（映画上映、憲法学習）大塚生協クリニックと協力して行っている。

3000万署名はコープ大塚店前で行う。

★東大宮九条の会(宮崎市)

3000万署名は、他の団体と共同して、ハンドマイク宣伝行動などの他コープ花ヶ島店頭で行ってきた。8月5日現在2,659筆の署名を集めた。日を追うごとに反応がよくなっている。

★大淀九条の会(宮崎市)

年1回の総会、月1の世話人会（ここでは時々の9条改憲に関する政治課題を憲法カフェとして勉強。3000万署名は、月2回コープかおる坂店頭で実施。

★新田原九条の会(新富町)

会員の中心メンバーは、「新田原基地爆音訴訟」問題に力を集中。3000万署名はコープ高鍋店頭で行なっている。

★宗教者憲法9条の和・延岡

年1度の「宗教音楽による平和のつどい」とそのための代表世話人会1、2回。

3000万署名は、今年のつどいより各宗教で取り組み開始（6月10日集約）

全国・全県的な催し日程が入り次第ファックスで案内を流す（4宗教団体へ）

憲法9条のすばらしさと武器がなくとも平和が守れる具体的な例を若い人たちへ伝える準備をしてほしい（例、紙芝居、小話など）

私個人でも、ささやかですが、民話語り部の会の活動で年に何度か小学生、一般の方へ戦時中の苦しい体験をかたり聞かせています。高齢者は年齢に応じた体験を若い人に聞かせることが大切だと思う。

★一ケ岡9条の会(延岡市)

3年前より毎月19日に、「安倍暴走政治を許さない延岡市民の会」に参加し、宣伝活動を続けている。

昨年より会として1000筆を目標にして取り組み、この4月に達成した。

★教職員OB九条の会みやざき

1、毎月9日13時から14時まで山形屋前で憲法守れの街頭宣伝署活動をしています。

2，憲法は自分の原点だと毎月必ず街頭宣伝署名活動に参加する会員がいること。

3、安倍9条改憲NO！3000万署名へのとりくみ

憲法と平和を守る宮崎県連絡会として集約している。

4、憲法カフェなどの勉強会に講師として参加している。

〈詩〉

平和（八月十五日に）

吉飼清勇

数えきれぬ亡骸がまだ還って来ない
七十余年の時空
父親も　母親も　赤ん坊も　若い兵士も
シベリヤで　満州で　サイパンで…
彷徨う魂を置き去りにし
日本とアジアの罪なき人々を殺戮した
A級犯罪指定者はまかり通って
加害者意識を被害者意識とすり替えて
侵略を正当化の消しゴムで消す
悲惨な人は悲惨と言えなかった人々で
子供と女と銃を握らされた若者で…
本当の人殺しは歴史の裏側で
哀しみの仮面をつけてスタンバイする
「繰り返しませぬ」の誓いは
口ごもる念仏のように消えかかる
平和なのでしょうね　今・・・

平和の詩『生きる』

―あなたも知っているだろう
この島の悲しみを

浦添市立港川中学3年　相良倫子

私は生きている。
マントルの熱を伝える大地を踏みしめ、
心地よい湿気を孕んだ風を全身に受け、
草の匂いを鼻腔に感じ、
遠くから聞こえてくる潮風に耳を傾けて。

私は生きている。
私の生きるこの島は、
何と美しい島だろう。
青く輝く海、
岩に打ち寄せしぶきを上げて光る波、
ヤギの嘶き、
小川のせせらぎ、
畑に続く小道、
萌え出づる山の緑、
優しい三線の響き、
照りつける太陽の光。

私はなんと美しい島に、
生まれ育ったのだろう。

ありったけの私の感覚器で、感受性で、
島を感じる。心がじわりと熱くなる。

私はこの瞬間を、生きている。

この瞬間の素晴らしさが、
この瞬間の愛おしさが、
今という安らぎとなり、
私の中に広がりゆく。

たまらなくこみ上げるこの気持ちを、
どう表現しよう。
大切な今よ。
かけがえのない今よ。

七十三年前、
私の愛する島が死の島と化したあの日。
小鳥のさえずりは恐怖の悲鳴と変わった。
優しく響く三線は、爆撃の轟きに消えた。
青く広がる大空は鉄の雨に見えなくなった。
草の匂いは死臭で濁り、
光り輝いていた海の水面は、
戦艦で埋め尽くされた。
火炎放射器から噴き出す炎、幼子の泣き声、燃え尽くされた民家、火薬の匂い。
着弾に揺れる大地。血に染まった海。
魑魅魍魎のごとく、姿を変えた人々。
阿鼻叫喚の壮絶な戦いの記憶。

みんな生きていたのだ。
私と何も変わらない、
懸命に生きる命だったのだ。
彼らの人生を、それぞれの未来を。
疑うことなく思い描いていたんだ。
家族がいて、仲間がいて、恋人がいた。
仕事があった。生きがいがあった。
日々の小さな幸せを喜んだ。手を取り合って生きてきた、私と同じ、人間だった。

それなのに。壊されて、奪われた。
生きた時代が違う。ただ、それだけで。
無辜の命を。当たり前に生きていた、あの日々を。
摩文仁の丘。眼下に広がる穏やかな海。
悲しくて、忘れることのできない、この島のすべて。
私は手を強く握り、誓う。
奪われた命に思いを馳せて。
心から誓う。

私が生きている限り、
こんなにもたくさんの命を犠牲にした戦争を、
絶対に許さないことを。
もう二度と過去を未来にしないこと。
全ての人間が、国境を越え、人種を超え、宗教を超え、あらゆる利害を超えて、平和である世界を目指すこと。

生きること、命を大切にできることを、
誰からも侵されない世界を創ること。
平和を創造する努力を、厭わないことを。

あなたも感じるだろう。
この島の美しさを。
あなたも知っているだろう。
この島の悲しみを。

そして、あなたも、私と同じこの瞬間を
一緒に生きているのだ。

今を一緒に、生きているのだ。

だから、きっと分かるはずなんだ。
戦争の無意味さを。本当の平和を。
戦力という愚かな力を持つことで、
得られる平和など、本当はないことを。
平和とは当たり前に生きること。
その命を精一杯輝かせて生きることだということを。

私は、今を生きている。
みんなと一緒に。
そして、これからも生きていく。
一日一日を大切に。平和を想って。
平和を祈って。

なぜなら、未来は、この瞬間の延長線上にあるからだ。
つまり、未来は、今なんだ。

大好きな、私の島。
誇り高き、みんなの島。
そして、この島に生きる、すべての命。
私と共に今を生きる、私の友。私の家族。

これからも、共に生きてゆこう。
この青に囲まれた美しい故郷から。
真の平和を発進しよう。
一人一人が立ち上がって、
みんなで未来を歩んでいこう。

摩文仁の丘の風に吹かれ、
私の命が鳴っている。
過去と現在、未来の共鳴。
鎮魂歌よ届け。悲しみの過去に。
命よ響け。生きゆく未来に。
私は今を、生きていく。

相良倫子さん
2018/6/23 沖縄慰霊の日追悼式典にて、

辺野古新基地建設